

FANCT

旭川工業高等専門学校 学校だより“ファンクト”
平成30年3月発行

vol. 130



10月に本校同窓会から校旗が贈呈されました

Contents

特集 卒業・修了おめでとう!2～6

第1学年クラス紹介	7
第4学年見学旅行	8～9
第55回高専祭	10
留学生実地見学旅行と留学生交流会	11
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト	12
全国高等専門学校デザインコンペティション	13
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	13
全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	14
「エネルギー利用」技術作品コンテスト	14
女子学生の活躍を支援する取り組み	15

ANCTOPICS 16～17

・北海道ドローン選手権	
・札幌モーターショー	
・タイ・ラオスの大学と学術交流協定を締結	
・研究発表会受賞	
・旭川市青少年健全育成功績者表彰	
平成30年度行事予定	18
退職する教職員の紹介	18

特集

卒業・修了 おめでとう！

卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。たくさんの思い出を胸に、本校で培った知識や技術を活かし、次の新たな世界での活躍を願っています。



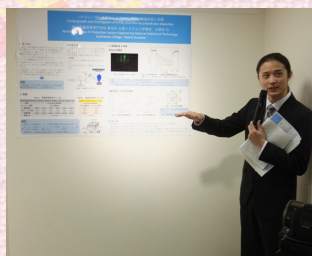
専攻科長 大島 功三

専攻科修了生の皆さん、修了おめでとうございます。保護者の皆様はじめご関係の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

就職する人も大学院へ進学する人も、4月からの新生活へ思いをめぐらせていることと思います。苦勞しながら特別研究論文を書き上げ、大学改革支援・学位授与機構の審査を経て、2年間の専攻科課程を修了することができた皆さんは、解答のある問題に答えるための勉強だけではなく、自ら問題を見つけ創造的な研究を行う能力を身に付けてもらったことと思います。

これから新たな社会へ出て行くと、色々な困難に直面することになると思います。そんなときには旭川高専で培った能力を活かして、その困難を打破して下さい。

皆さん一人ひとりが旭川高専に対し、いつまでも変わらぬ愛をもち、それぞれの未来へ向かって飛躍されることを願ってやみません。



生産システム工学専攻 2年 山本 竜生

専攻科では研究の一環で廃炉創造ロボコンに参加しました。廃炉内を想定した厳しい条件下でのロボット製作は簡単ではなかったですが、特別賞を受賞することができ、良い経験となりました。また、インターンシップや学会発表で福岡や大阪など、行ったことのない場所に足を運び、地域特有の文化や食べ物を堪能し、観光できたのも良い思い出です。

専攻科に入学して一番苦勞したのは、自分の立場、つまり専攻科についての説明でした。高専自体、認知度はまだまだ高くなく、4年制だと思っている方や、そもそも存在自体ははっきりと認識されている方が少なくありません。専攻科という制度を知っている方となるとさらに少ないので、高専の専攻科に通っていると話しても理解してもらえず、専攻科の認知度の低さを実感しました。4月から就職し社会人となるので、専攻科で身に付けた能力を発揮し、きちんと仕事をこなせる人間になりたいです。

機械システム工学科 5年 学級担任 宇野 直嗣

機械システム工学科5年の学生の皆さん、保護者の皆さま、ご卒業おめでとうございます。

昨年の3月に、前任の河野先生に代わり学級担任を急きょ引き受け、そのことで皆さんに不安を与えないようにと考えているうちに、1年があっという間に経過しました。

入学時に定員割れでスタートし、その後、進路変更で本校を去る者もいたため、例年の機械システム工学科5年生よりもやや少人数のクラスになりましたが、それぞれが希望する進路に決定し、卒業の日を迎えられたことは、学級担任として何より安心しました。

4月からは新たな環境での生活が始まりますが、就職・進学にかかわらず、大人としての振る舞いが求められるとともに、一つ一つの経験がその後の将来を大きく左右します。皆さんが悔いのないように日々を過ごせることと、今後ますます成長してくれることを心より願っております。



機械システム工学科 5年 日向寺 柁

私たち5Mは、現在33名在籍しています。おとなしいクラスですが、それぞれの個性を認め、高め合うことのできるクラスだと思っています。

担任をして下さいました根本先生、河野先生、宇野先生には進学や就職関係など多くの場面で世話になりました。また、日々授業をして下さった先生方、実習工場の職員の方々などのたくさんの支えにより、ここでしか手に入らない貴重な経験を積ませてもらうことができました。一生の宝物だと感じています。

これからは、進学や就職といったそれぞれが選んだ道を進んでいくこととなりますが、この学校で得た経験を糧に社会に貢献できる人材になっていく必要があると強く思っています。

最後に、担任である宇野先生をはじめとする先生方、共に過ごしてきたクラスメイト、支えてくださったすべての皆様に関心より感謝いたします。5年間本当にありがとうございました。



電気情報工学科 5年 学級担任 笹岡 久行

学生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、学生たちへ変わらぬご支援を頂きました保護者の皆様へ感謝を申し上げますとともに、ご卒業の日を迎えられましたことに心からお慶びを申し上げさせて頂きたいと存じます。これまで学級担任として至らない場面も多々あったことかとは思われますが、共にこの3年間過ごさせて頂けたことはとても幸せであったと感じております。

無事に電気情報工学科を卒業することはできましたが、これで皆様の勉強は終わりとは考えず、ここからが本格的なスタートとし、なお一層、それぞれの道で精進してください。さらには、卒業生として立派な姿を見せるために来校して下さることを心からお待ちしております。



電気情報工学科 5年 工藤 宏斗

私たち5Eは、学生数が31人と比較的人数が少ないクラスです。しかしイベントになると、クラスで丸となって、一生懸命取り組んでいたと思います。特に今年の体育祭では4位と過去最高の順位、学校祭ではクラスでハンバーガー屋さんを出店し、さらに中夜祭では5Eのみんなが沢山活躍し、大いにアピールできた1年だったのではないかなと思います。

そんな私たちの担任を務めて下さった長岡先生、笹岡先生、そして授業をご担当して頂いた先生方や職員の皆様には大変お世話になりました。赤点を取っても、課題の提出が遅れても、単位を落としても、決して見放さずに僕達と向き合ってくださいました（僕が単位を落としたとは言いません）。

たくさんの人に支えられながら過ごした5年間だったと思います。本当にありがとうございました。

私は4月から専攻科に進学するため、あと2年高専にいます。クラスの仲間と離ればなれになるのは少し寂しいですが、自分の将来のために精進していきたいです。



システム制御情報工学科 5年 学級担任 堀川 紀孝

5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様におかれましては本校の教育へのご理解とご協力に感謝申し上げます。高専での5年間は長いようで短かったのではないのでしょうか。1・2年の学級担任奥村先生から引き継いだクラスは、成績が良く、スポーツはちょっと…という特色で、クラスTシャツ「文文両道？」は言い得て妙でした。強い結束というよりは緩く結びつき、お互いを尊重して過度に干渉はしないけど、困っていれば助ける関係ができていたように思います。様々なタイプの学生が揃ったクラスが、おおむねうまく共存できたのはそのおかげと感じています。

これからは環境もやることも大きく変わり、身の回りから世の中まで色々なスケールで物事が動きます。そんな中で、壁にぶつかることもあるでしょうけれども、粘り強く頑張ってください。たまには高専に立ち寄って活躍ぶりを聞かせてくれると嬉しいです。

Bon Voyage!



システム制御情報工学科 5年 花房 竜馬

5年間、数字だけ見れば長い道のりのようでしたが、実際のところ、年月の経過を忘れるほど色濃い日々でした。

にぎやかな対面式から始まり、活気の溢れる体育祭、高専ならではの豪華、且つ、豪快な高専祭、入学当初、高専生の底知れぬ超パワーに圧倒されてばかり。しかし、気が付けば、周囲も私自身もそのパワーをしっかりと受け継ぎ、高専生活を目一杯楽しんでいました。

高専の自主性を重んじる校風がなせる業だと感じています。

自分の考えを持ち、ぶつかっても受け入れ、個々の違いや良し悪しを分かち合うことができる心。生きていく中で、かけがえのないものを育むことができました。

たくさんの思い出と経験を胸に、新たな生活へ堂々と踏み出していこうと思います。

最後に、奥村先生、堀川先生をはじめ、私たち一人一人に真剣に向き合ってくださいました先生方、そしてこの5年間を共に歩んできたクラスメイトへ心からの感謝を送ります。ありがとうございました！

物質化学工学科 5年 学級担任 松浦 裕志

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。私は皆さんが3年生になってから約3年間、学級担任としてかかわってきました。いろいろなことがありましたがこの日を迎えることができ、正直ほっとしています。これからは企業や大学といったこれまでとは大きく異なる社会に羽ばたくこととなります。未来は大きく開かれていて、楽しいことが待ち構えているでしょう。しかしこれまで以上に苦しいこともあるかもしれません。高専本科での学校生活は終わりますが、今後も毎日何かに向かって努力をする必要があります。人間はそう簡単に変えることはできませんが、いい習慣は継続して、自分で変えていかなければいけないと思っていることは少しずつ改善して良い社会人になってもらいたいです。保護者の皆様におかれましては5年生まで本校教育にご理解賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。卒業生、保護者の方々の今後の御多幸をお祈り申し上げます。



物質化学工学科 5年 三谷 晟久

私たちは、5年間の高専生活を通して勉強はもちろんのこと、人間的にも大きく成長することが出来たと実感しています。

勉強面については、低学年時に化学に関する幅広い知識を学び、高学年になるに従い専門性の高く自分の興味のある分野に力を入れることができるなど、非常に充実したものでした。

また、1年生から5年生までである様々な分野の学生実験、4年生でのインターンシップ、高専生活を締めくくる卒業研究などをこなすことにより、自分で考えて行動するというのを筆頭に、実に様々なことを自分の身をもって体験し学ぶことができました。

何事にも感謝の気持ちを忘れず、高専で得た経験を活かして、今後の勉強、研究、仕事など様々なことを乗り越えていきたいと思います。

最後になりますが、担任である松浦先生をはじめ、お世話になった教員、技術職員の方々、同級生に心から感謝しています。



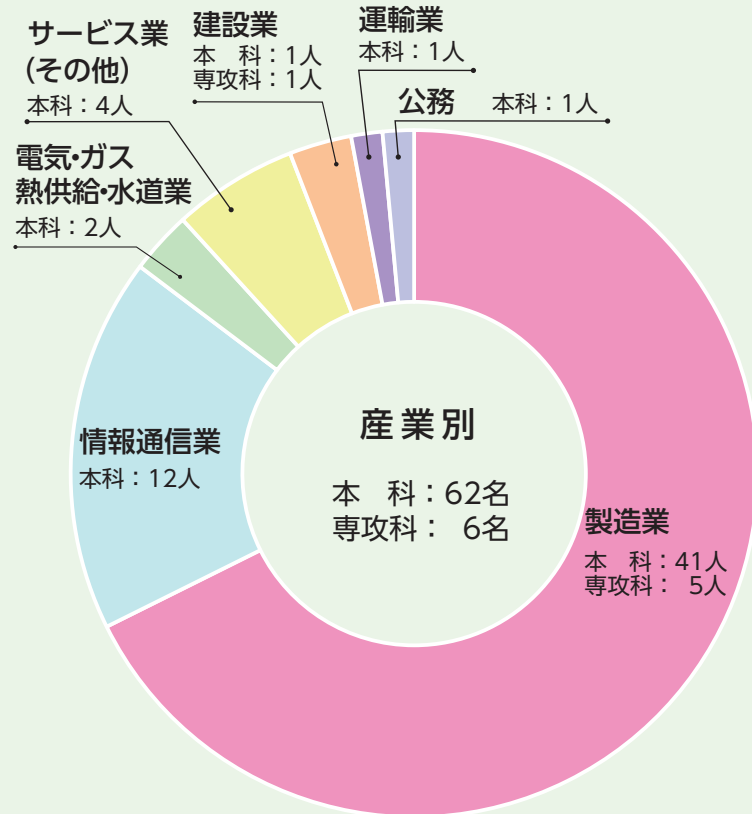
平成29年度 卒業生・修了生 進路状況

<就職> 本科 62名 専攻科 6名 本科・専攻科就職先

企業等名	地域	種別	機械	電気	制御	化学	生産	応用
ANAエンジンテクニクス(株)	関東	運輸業	1					
ANAベースメンテナンステクニクス(株)	関東	製造業	1	1				
ANAラインメンテナンステクニクス(株)	関東	製造業		1				
(株)朝日工業社	関東	建設業			1			
(株)INDETAIL	北海道	サービス業(その他)			2			
出光興産(株)北海道製油所	北海道	製造業				1		
ウエルネット(株)	関東	情報通信業			1			
M-SOLUTIONS(株)	関東	情報通信業		1	1			
荏原環境プラント(株)	関東	製造業	1					
(株)エヌティ・ティ・エム・イー	関東	情報通信業		1				
大阪ガス(株)	関西	電気・ガス・熱供給・水道業			1			
(株)大塚製薬工場 釧路工場	北海道	製造業				1		
カルビーポテト(株)	北海道	製造業				1		
関東化学(株)	関東	製造業				1		
KDDIエンジニアリング(株)	関東	情報通信業		1				
(株)コイワイ	関東	製造業			1			
コニカミノルタジャパン(株)	関東	製造業	1	1	1		1	
(独)国立印刷局	関東	公務	1					
サイバートラスト(株)	関東	情報通信業			1			
佐藤鋳工(株)	北海道	製造業	1		1			
JXエネルギー(株) 室蘭製造所	北海道	製造業	1					
ジョンソンコントロールズ(株)	関東	建設業					1	
(株)SUBARU	関東	製造業			1			
WDB工学(株)	関東	サービス業(その他)			1			
大日精化工業(株)	関東	製造業				1		
大旺鋼球製造(株) 北海道工場	北海道	製造業			1			
(株)中央エンジニアリング	関東	製造業	1					
チームラボ(株)	関東	情報通信業	1					
東芝メディカルシステムズ(株)	関東	製造業		3				
東芝機械(株)	東海	製造業			1			
DOWAサーモエンジニアリング(株)	中部	製造業	1					
(株)ドコモCS北海道	北海道	情報通信業		1				
(株)檜崎製作所	北海道	製造業					1	
(一社)日本血液製剤機構	関東	製造業			1			
ニプロ(株) 再生医療開発センター	北海道	製造業				1		
日鉄住金テックスエンジ(株)	関東	製造業		1				
日本テック(株)	関東	製造業		1				
日本放送協会(NHK)	関東	情報通信業		1				
(株)浜野製作所	関東	製造業					1	
パナソニックスイッチングテクノロジーズ(株)	北海道	製造業	1					
(株)日立ビルシステム	関東	サービス業(その他)			1			
日立建機日本(株)	関東	製造業	1					
北海道電力(株)	北海道	電気・ガス・熱供給・水道業		1				
北海道三井化学(株)	北海道	製造業				1		
(株)北海道LIXIL製作所	北海道	製造業	1					
北海道エア・ウォーターエンジニアリング(株)	北海道	製造業	1					
北海道エア・ウォーター(株)	北海道	製造業	1					
北海道住電精密(株)	北海道	製造業			1			
(株)牧野フライス製作所	関東	製造業					1	
三菱ケミカルエンジニアリング(株)	関東	製造業	1					
三菱電機ビルテクノサービス(株)	関東	製造業	1	1				
(株)メデック	北海道	製造業			1		1	
(株)メンバーズ	関東	情報通信業		3				
メタウォーター(株)	関東	製造業	1					
(株)モビテック	中部	製造業	1					
合計			19	18	18	7	6	0

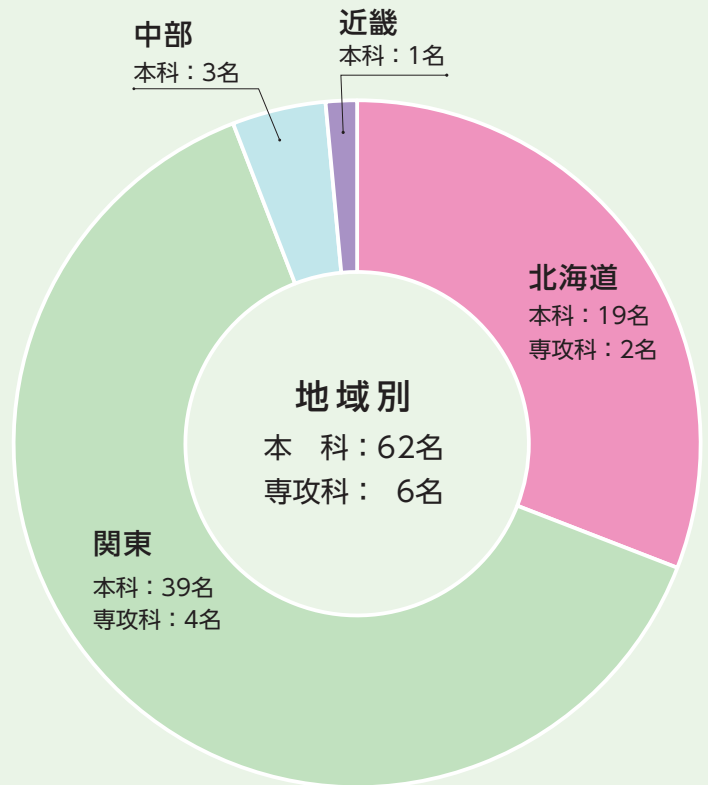
就職先産業別

分類	本科	専攻科	合計
製造業	41	5	46
情報通信業	12		12
電気・ガス・熱供給・水道業	2		2
サービス業(その他)	4		4
建設業	1	1	2
運輸業	1		1
公務	1		1
計	62	6	68



就職先地域別

地域	本科	専攻科	合計
北海道	19	2	21
関東	39	4	43
中部	3		3
近畿	1		1
合計	62	6	68

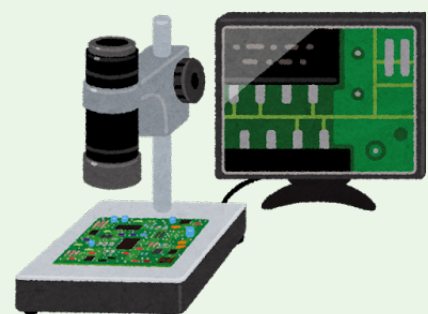


<進学> 本科進学先 本科 59名

進学先	機械	電気	制御	化学	計
本校専攻科	5	6	4	7	22
北海道大学			3	1	4
北海道教育大学				1	1
室蘭工業大学				2	2
秋田大学	1				1
宇都宮大学				1	1
千葉大学				1	1
東京農工大学	1	1	1	1	4
信州大学		1			1
新潟大学		1		1	2
長岡技術科学大学	3	1		1	5
豊橋技術科学大学	3		2	2	7
名古屋工業大学				1	1
京都工芸繊維大学			2	1	3
大阪大学			1		1
九州大学			1		1
九州工業大学		1			1
その他		1			1
計	13	12	14	20	59

専攻科進学先 専攻科 8名

進学先	生産	応用	計
北海道大学大学院		5	5
早稲田大学大学院	2		2
筑波大学大学院		1	1
計	2	6	8



第1学年クラス紹介

第1学年各クラスの様子について、学級担任の先生と学生代表から一言ずついただきました。

代表 菅野 皓

1年機械システム工学科は、男子42人、女子2人の計44人で、楽しく学校生活を送っています。私たちのクラスはとても活発で、休み時間などは元気に活動していることが多いです。ですが、授業中は集中して授業を受けています。担任の石本先生は、少し厳しいですがしっかりとクラス全員の指導をしてくれる、頼りがいのある先生です。合宿研修では、よりクラスの結束力を高めることができました。

これからの学校生活で、よりよいクラスになっていきたいです。



成長する1M 学級担任 石本 裕之

1Mの授業を時々見に行きますが、皆実習が楽しいと言っています。よいことです。遅刻がほとんど無く、朝学習にも取り組み、まずは落ち着いた学校生活を送っているようです。ただ、勉強面ではもっと成果を上げましょう。1Mの皆が、クラスの一員・社会の一員として、他者の努力を妨げないこと、支えること、そしてより充実した環境を作る一人一人であることを願います。

代表 武田 祐昂

1Eには、勉強の苦手な人や得意な人、運動の得意な人、ゲームが得意な人など、多種多様な人間がいて、毎日色々なことが起きて楽しいクラスです。学力面では他のクラスに敵いませんが、良い意味のオタクの数だけは学年一だと思っています。担任の岡島先生はクラスのためにしっかりと働き、物理をわかりやすく丁寧に教えてくれるので、クラス一同とても感謝しています。



学級担任 岡島 吉俊

1Eは総勢40名で、いろいろなタイプの学生が集まった、バラエティに富んだクラスです。校内体育大会で駅伝に出場しなかったり、かと思えば、学生会メンバーが多かったりと、時々思いもよらないことが起こります。まだまだ子供っぽいところがたくさん残っていますが、その分、成長の伸びしろは大きいことになります。早く大人になって欲しいなあ……。5年生になったとき、どこまで成長しているか、楽しみなクラスです。

代表 上坊寺 遥己

私たち1Sは頭脳明晰、スポーツ万能の優秀な人材を数多く取り揃えております。このクラス紹介の文もじゃんけんでやっと決まるほどの積極性を持ち合わせており、非常に完成されたクラスと言えます。クラス内の空気も良好で馴染みやすいです。

また私たちの担任である小西先生もクラスを把握し特筆すべき包容力がある人格者です。非の打ち所のない素晴らしいクラスである1

Sを我々は強く推奨します。

良い返事を待っています。



学級担任 小西 卓哉

「全員友達は難しいかもしれないけど、みんな仲間にはなって欲しいです。」と最初にクラスのみんなに提案しました。難しいかなと思っていた「全員友達」にも近づいているかなとも感じています。「みんな仲間」には、なってくれていると思っています。(担任の勘違いでないことを祈る…) 保護者面談の際も、クラスの様子を「ほわっと仲の良いクラス」と表現しましたがクラスの程良い距離感は好きですね。「クラスを把握し特筆すべき包容力のある人格者」である担任として、日誌のコメント頑張ります。

代表 菅原 優樹

私たち1Cは、男女の人数が半分ずつくらいで、まるで普通高校のようなクラスですが、男女ともに仲が良く、休み時間とても楽しそうにしています！授業もまじめに受けている人が多いです。たまに、先生たちの声が心地よくて寝てしまう人もいます。が…。来年は授業中に寝る人が減って、もっと楽しいクラスになれるようにみんなで頑張ってください！



学級担任 大澤 智子

期待に胸を膨らませて旭川高专に入学してから約1年が経ち、初々しさに凶々しさも加わり一丁前に口答えもするようになってきたメンバーですが、集団行動となると恥ずかしさのあまりか遠慮してなのか未だに素早く隊列を組むことができないクラスでもあります。これからの学校生活や社会では、他人と同じ時間を共有することが多々ありますので、相手を気遣いながら、そして体育大会で見せてくれた笑顔を大事に励まし合いながらお互いに成長していきましょう。



…第4学年 見学旅行…



本校では、第4学年の学生を対象に、道内企業等を訪問し生産現場の施設・設備及びその生産過程を見学させていただく「見学旅行」を実施しています。今年度は10月25日～27日に実施した見学旅行について、各学科の代表学生から感想をよせてもらいました。

機械システム工学科4年 田中 隆唯

見学旅行では、金属を製造している企業や家を製造している企業、食品を製造している企業など様々な業種の企業を見学することができ、自分が今まで知らなかった企業についても学ぶことができたので、非常に良い経験となりました。

どの企業も興味深かったのですが、個人的には、山崎製パン(株)が特に印象に残りました。

山崎製パン(株)では、山崎グループについての説明を受け、

日糧製パン(株)や不二家も山崎グループであることに衝撃を受けました。また、実際に工場を見学すると、見たことのない機械がたくさんあり、どのような過程でパンが作られているのかも分かったので、勉強になりました。食品を扱っている企業だけあり、衛生面への気遣いが凄いと感じました。

今回の見学を通して、予定も詰まっている中、友達との友情も深めることができ、充実した見学旅行となりました。



電気情報工学科4年 渡邊 日明

見学旅行で6つの会社を見学し、環境や業務内容に対する理念が各社ありました。具体的には、部品の製作に関して機械を多く用い自動化に力を入れる会社、最終的に人間が厳しく検査し部品の製作を行う会社、小さな部品の製作から大きな機械の組み立てまでを行うことでコスト削減をする会社など、業務内容によって適した方法が異なるのかもしれませんが、多種多様な業務に対する理念を知ることができました。

その中でも特に印象に残ったのが、出光興産北海道製油所です。製油所に入ったとき、まず巨大な製油機械、そして複雑につながるパイプが目に入りました。教科書で見る図などからは想像できない大きさでした。この製油所の見学で私は、原油を精製するだけでも多くの労力と施設が必要なのだと感じました。そして、業務を行う上で社員同士のコミュニケーションや協力が必要なのだと感じ、とても良い経験になりました。この見学で学んだことを生かし、自分の将来のために役立てたいと思います。



システム制御情報工学科 4年 阿部 弘季

見学旅行で学べたことは、やはり実際に仕事の現場を見て、自分に適しているかどうかを判断できるという点です。公式サイトやパンフレットを見るだけではイメージが浮かびにくい場合が、多々あると思います。この経験を基にすることによって進路先の筋道が立てやすくなったと思います。

今回3日間で6つの企業の工場を見学させていただき、非常に充実した旅行でした。

どういった点が充実していたかという点、どれも初めて見るものばかりでした。工場の地べたから屋根まで約10m

もの高さの機械であったり、繊細に作りあげられる切削道具の製作過程であったり、家の部屋の製作過程そして素材の違いを手で触って感じるなど、自分たちにとって刺激を与えてくれる内容が多かったです。仕事風景を見るという形で楽しむこともできたと感じています。

自分の不向きもあると思います。こういった仕事をやっていきたいか探すうえで、この見学旅行は進路に向けての活力になりました。



物質化学工学科 4年 花垣 優貴

今回の見学旅行では、3日間で多くの工場を見学させて頂きました。普段の生活では見ることのできない工場の内部を実際に見て、現場で働く方の詳しい説明を聞くことができ、貴重な経験になったと感じています。中でも新日鐵住金株室蘭製鐵所では大規模な棒鋼・線材の製造ラインを見ることができて印象に残りました。

さらに北海道大学環境科学院に訪問させて頂く機会もあり、その中で非常に多くの研究室を見学することができました。研究室の学生、先生方から研究についての話や大学生活についてのお話を聞くことができ、5年生から始まる卒業研究に対する意識や、今後自分がやってみたい研究に関する意欲を高めることができました。

またバス移動中や宿泊したホテルで友達と過ごした時間はとても楽しく、思い出に残るものであり、密度の濃い3日間を過ごすことができました。今回得た様々な経験を今後の進路活動につなげていきたいです。



第55回 高専祭

10月14日(土)・15日(日)の両日、本校を会場に「第55回高専祭」が開催されました。各学科による実験・実習パートや、クラブ・同好会による展示、20店近い飲食パート(模擬店)のほか、小中学生対象のスタンプラリーやビンゴ大会、コンテストやバンドライブなど、数多くのイベントを催しました。

学生会会長 機械システム工学科4年 佐藤 和弥

紆余曲折を経て、第55回高専祭を無事にやり遂げることができたことに感謝をしつつ、今こうして振り返ることができることに大きな喜びを感じています。

学生会に4年間所属し、最後に会長という重要な役職に就き、今までにない多忙さを感じていた中、最後の最後の大仕事として無事に高専祭が進行でき、経験の多さという強みを確認しました。いらっしゃる方々とはあまり直接かわることのない仕事を担当していたため、「皆様が高専祭を満喫していましたね」とははっきり言えず、少し心もとないのですが、進行が止まったり緊急でばたばたしたりすることもなく、スムーズに執り行うことができたのではないのでしょうか、良い思い出として心の隅にでも残っていたら幸いです。

今回の高専祭は、開催時期がいつもと違い十二分に寒かったのですが、過去数年と比較するとまだ暖かく、雪が降り積もることがなく、自転車で来校していた中学生を見かけ、まだ天候に恵まれていたと思いました。今後もそうなることを願います。

最後になりましたが、今後とも旭川工業高等専門学校にとどまらず、全国各地に存在する高専を今後ともよろしくお願いします、皆様のご多幸と高専の発展を祈りながら挨拶に代えさせていただきます。この度の高専祭に関わっていただいた皆様に心より感謝いたします、ありがとうございました。



高専祭実行委員長 システム制御情報工学科4年 角谷 聡洋

今回は、至らぬ点多々あったと思われませんが第55回高専祭を終えることが出来ました。高専祭実行委員長は初めてでありこれで最後でもあったので、とてもほっとしています。

今年は、去年まで導入されていたセメスター制が採用されませんでした。そのため、夏期休業期間が変更になりました。その関係で、去年通りのスケジュールとはいかず、新たにスケジュールを組んで高専祭準備をしなくてはなりませんでした。高専祭自体も去年と比べ1週間ほど早い開催日となっていたので準備が大変でしたが、学生会執行部、学生一同協力することで乗り越えることが出来ました。

高専祭当日は、例年と比べて暖かいのかなと思っていたのですがそんなことはなく、寒い中お越しいただきありがとうございます。来場者の方々は、ビンゴ大会やスタンプラリー、各出店で楽しんでいただけたでしょうか? また来年も行きたいなと思っていただけていればとても嬉しいです。学生たちは、各出店や前夜祭、中夜祭、後夜祭で楽しむことが出来たと思います。

最後になりますが、高専祭を開催するにあたりご協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました!

留学生実地見学旅行と留学生交流会

本校に在籍する留学生6名が、10月に「留学生実地見学旅行」、1月に道内4高専による「留学生交流会」に参加しました。

「留学生実地見学旅行」は、本校チューター学生3名、引率2名の計11名で、「北海道大学低温科学研究所」、「札幌市交通局高速電車東車両基地」、「北海道コカコーラボトリング株式会社」及び「大倉山(オリンピックミュージアム)」を見学しました。「留学生交流会」は、美瑛町にある国立大雪青少年交流の家」に道内4高専の留学生が集まり、七宝焼き作りやスノーシュー体験など通じて交流を深めました。

物質化学工学科4年 ナビル (マレーシア)

10月16日(月)・17日(火)に「外国人留学生実地見学旅行」が開催された。このプログラムの目標は留学生たちがチューターとともに札幌にある場所を見学することである。初めてこのプログラムに参加した私は本当にワクワクして楽しむことができた。

初日は、札幌の電車(地下鉄)の工場を見学しに行った。電車の部分の作り方とか電車の動きを説明してくれているいろいろな新しい情報を得ることができた。今まで見たことがなかったことを、このプログラムを通じて見ることができたので、とてもいい経験であった。次に、北海道大学の研究室(低温科学研究所)に行き、そこでは、いろいろな研究者に会ってすばらしい発見に関して説明してくれた。進学に興味がある私には本当にいい勉強になり、参考になった。大学ではどのような勉強をするのかさっぱりわからない私には、この機会を通じてはっきり理解することができた。大学生たちは、みんなすばらしい研究をするために一生懸命に努力しているので、誰でも見たらきっと感動すると思う。

2日目にはコカコーラの工場へ行った。そこではコーラだけではなく、様々な種類の飲み物が作られている。帰る前にスキーの体験ができる場所(大倉山(オリンピックミュージアム))も行った。スキーをやったことがない私にはいい体験になった。スキーは難しくても楽しいスポーツである。この旅は短かったが、いろいろな新しいことを学ぶことができた。チューターたちも留学生に日本の生活に慣れるために数えきれないほどいろいろなことを教えてくれて大変ありがたい。これからも日本でいろいろな新しい思い出を作って学校の勉強も含めて頑張っていきます。



物質化学工学科5年 ガリー (インドネシア)

1月6日(出)～8日(月)に、北海道4高専の留学生の交流会があり、今年は旭川高専担当のため、美瑛町にて行いました。初日に七宝焼き作り体験をしましたが、小さな銅板の上に柄を描くのは本当に難しいと感じました。翌日にはスノーシュー体験をしました。長靴では雪に埋まってしまうのですが、スノーシューでは埋まらずに歩けました。また、スノーシューを使って、イグルーを造ろうとしたのですが、うまくできなくて、タワーの形になってしまいました。スケジュールにはなかったのですが、みんなが寝る前に雪合戦をしたり、バスケットをしたり、トランプもしたりして、時間を楽しく過ごすことができました。めったに体験できないこれらの体験を交流会で出来たことは、大変価値のあるものだと感じました。

留学生のネットワークを広げることが一つの目的でした。留学生全員に声をかけることはできませんでしたが、私は何人かの友達ことができました。今年は最後の交流会で、来年は参加出来ませんが、広がったネットワークを活かして、今後も、留学生の自分達には難しいと思われることに協力して挑戦していきたいと思うようになりました。



今年度も、全国の高専生が競うコンテストや、全国の中高生・大学生が出場するコンテストに、本校学生が積極的に参加し、優秀な成績を収めています。

アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト

ロボコンを振り返って

システム制御情報工学科5年 厚母 誉

今年は最後の年ということもあり、「勝つ」ということにこだわり、慎重に大胆にアイデアを考えました。先輩方が全国大会に行く中で、自分のチームが一昨年、昨年と地区大会で一回戦負けだったのは、「勝つ」というものをまるで分っていなかったからだったと思います。去年は、勝ちを目指す中でロボット製作に対して一切妥協していませんでした。一昨年は、圧倒的にロボットの完成度が低く、そもそも勝つということをあまり意識していませんでした。ですが、全国大会で先輩や他高専との技術、勝利を目指す気持ちで圧倒的な差を思い知り、悔しさを知り、あこがれを抱き、夢ができました。そのため昨年は、妥協ということができない自分がありました。勝つということはまだ理解できなかったのだと思います。

今年は単なる勝負だけはしたくありませんでした。勝負には負けがあります。負けは無くさなければならぬ。負けというのはそこかしこに散らばっていて、勝つためにはそれを全部見つけ、拾い上げなくてはいけない。常に負けを探す。今年はその毎日でした。少しは勝つことを理解できたのか、今年の地区大会は優勝できました。

ただ、全国大会は一つの負けで終わりました。視野が狭く、負けを全て見つけ出すことができませんでした。「もっと色々な目があったら」と思うこともありますが、それは甘えで、結局見つけられなかったのは自分のせい。半年の時間が3分で終わる。そしていつ終わるかわからない後悔が始まる。試合に負けたことは悔しくないといえば嘘になりますが、試合よりもっと前のところでの悔しさのほうが、大きいものでした。負けは負けてからわかる。負ける前に負けをすべて見つけ出すこと。当たり前のことですが、これが勝つことだと思ひ、そしてロボットに、ものづくりに完成というものはないと感じました。

ロボコンでは、ものづくり、勝つということの難しさ楽しさを学び、自分自身成長することができたと思います。今年の全国大会はベスト8で終わり、目標であった優勝をすることができなく、多くの悔いが残りました。



ただ、ロボコン、楽しかったです。

最後に、日に日に疲労度が増していく中で、ものづくりのアドバイス、勝負の厳しさを教えてくださった先生方、寛大で尊敬してやまない先輩、生意気だけど頼りになる後輩、最高の先輩、そしてご支援・ご声援をくださった多くの皆様、今まで本当にありがとうございました。



高専ロボコン30回記念大会

ロボットラボラトリ顧問 三井 聡

1988年に始まった高専ロボコンは今年で30回目を迎える記念の大会となり、会場はいつもの“両国国技館”ではなく、テニスの聖地“有明コロシアム”で行われ、大会の様子もライブで放送されました。

テーマは「大江戸ロボット忍法帳」で、2台のロボットが相手の風船を割り合う競技です。ロボットに風船が5個ずつ、互いの本陣にはそれぞれ10個の風船が取り付けられています。相手チームの本陣、または相手ロボット2台のすべての風船を割ると勝利となります。

北海道地区大会は10月22日(日)に函館アリーナで行われ、2、5年生のAチームと3、4年生のBチームで地区大会6連覇に挑みました。前日のテストランでは他高専のロボットは素晴らしいパフォーマンスを見せ、躍動していました。一方で本校のチームは調整に時間を費やし、まともなテストランはできていません。しかも、ホテルにコントローラを忘れるという大失態をしてくれました。その

ような状況でしたが、本番ではBチームが2回戦で敗退したものの、1回戦では優勝候補の苫小牧高専を破り、健闘してくれました。一方、Aチームは防御ロボットと3台の小型の攻撃ロボットが威力を発揮し、5年生初勝利、その勢いで地区大会を制し、6連覇を成し遂げることができました。

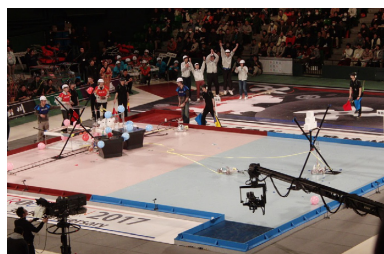
全国大会仕様ロボットの改良に苦しむのは例年と変わりませんでしたが、今年は全体的に緊張感がなく、おしゃべりをしながらの作業で、勝ちたい気持ちが行動に表れていない状況で、全国校大会の準備をしていました。

12月3日(日)の全国大会初戦の相手は出場ロボットの中で最も速い、優勝候補筆頭の舞鶴高専でしたが、本校の防御ロボットが、本陣裏を狙った相手ロボットの侵入を間一髪で防ぐことができ、どうにか勝つことができました。次は、長岡高専です。勝てると思っていたのですが、相手ロボットに防御ロボットの（押されやすい位置についていた）非常停止ボタンを叩かれて動けなくなり、一方的に攻められ本陣の風船を全て割られ負けました。攻撃ロボットは挙動が

おかしく、攻撃力が低下していました。それがなければ、先に本陣の風船を全て割っていたのですが、残念です。

本校に戻ったロボットをチェックすると、攻撃ロボットの受信回路に半田づけしていない箇所を見つけ、絶句。作業中におしゃべりばかりしては考えない、気づかない、課題も見いだせない、工夫・提案もない。その結果、準備段階で防げた単純ミスを見逃してしまいました。指導者として反省しています。それでもベスト8、皆さんご苦勞様でした。内閣総理大臣杯が欲しかったな。

高専ロボコン30年間を振り返ってみると、全国大会に15回出場し、地区優勝は12回（6連覇中）しています。全国大会での成績は大賞1回、優勝2回、準優勝1回、ベスト4以上6回（全国2番目）しています。これらの成績は本校教職員、後援会、同窓会、部員の保護者、ロボコンOBなどの大変多くの方々からのご支援、ご声援、ご理解があつてのことだと思います。この場を借りて感謝申し上げます。来年度は旭川開催で7連覇を狙います。応援よろしくお願ひします。



全国高等専門学校デザインコンペティション

機械システム工学科4年 旭 隼人 (デザコン出場学生)

デザコン指導教員 宇野 直嗣

私たちは、今回いつものAM デザイン部門ではなく構造デザイン部門に参加しました。機械システム工学科としては分野外だったため、橋の構造から力のかかり方など基礎知識から学び、自分たちにできるだけのことをして、大会に臨みました。自分たちの未熟な部分もあり、先生方から多くのご指摘をいただくことや、失敗することもありましたが、最終目標としていた優勝までは届かなかったものの耐久テストでは満点の70点を取ることができました。私は今回の活動を通じ、主に3D CADによる解析を重点的に行っていたため、解析の大切さや大変さ、また、仲間と協力することの重要性を学びました。今回の経験を活かし、自分の未熟なところを見つめなおして、これからの人生にいかしていきたいと思えます。

今年度の全国高等専門学校デザインコンペティションの本選は、12月2日(出)・3日(回)の2日間にわたり、岐阜県岐阜市にて行われました。本校からは、機械システム工学科4年生3名で構成された1チームが、例年とは異なる構造デザイン部門に出場しました。構造デザイン部門では、与えられた条件に従い、橋の模型を作製し、その強度とデザイン性を競う部門です。本校チームは出場チーム中一番初めに競技場で満点を獲得しました。一方、技術力・デザイン性・プレゼンテーション力が評価対象となる審査員評価では、本校チームの機械システム工学科らしい緻密な設計力に注目が集まりましたが、思うように得点が伸びず、最終的には総合22位となりました。出場学生らは当初より建築系のデザイン力の重要性を認識していましたが、改めて認識する結果となり、悔しさが残る結果となったものの、当初目標としていた、実験とシミュレーションの結果に基づいた緻密な設計を経験できたことで、機械系技術者となることへの自信につながったようです。



全国高等専門学校プログラミングコンテスト

パソコン部顧問 嶋田 鉄兵

10月8日(日)・9日(月)の2日間、山口県周南市の周南市文化会館にて第28回全国高等専門学校プログラミングコンテスト(高専プロコン)が開催され、本校のパソコン部から機械システム工学科5年 新田 陸さんとシステム制御情報工学科3年 近江 雄哉さん、伊勢谷 賢司さんの3名が競技部門に出場しました。

競技部門の今回のテーマは「おいでませ、ホントの魅力へ」と題して、昨年と同じく会場のある県(今回は山口県)の名所・名産品を題材としたパズルを、コンピュータプログラムを使いながら制限時間内に完成させるものでした。昨年と異なる点としては、パズルの完成が必須であること、ヒントのQRコードを使うごとに減点されるなどのルールが新たに加わりました。これによって、パズルを解くプログラムの完成度がより求められるほか、新たにQRコードを読み解くプログラムも必要となりました。

棄権するチームやパズルが完成できないチームが出るなかで、本校のチームは1回戦、準決勝と順調に勝ち進み、みごと決勝まで進出することができました。決勝については、上位チームの実力が非常に高く、残念ながら入賞となりませんでした。それでも、決勝を含むすべての試合でパズルを完成させたこと、回を重ねるごとにスコアを伸ばすことができたことなどの良かった点もあり、積み重ねてきた努力の成果が発揮されたと感じています。学生たちには、今回得られた成果や反省点を、また次回の大会へ生かしてもらえればと思います。



女子学生の活躍を支援する取り組み

男女共同参画推進室長 富樫 巖

男女共同参画推進室では、昨年度と同様に「女子学生と校長との懇談会 Part I と Part II」及び「旭川高専 OG と女子学生とのトークセッション」を企画・実施しました。



「同懇談会 Part II」は本科5年生と専攻科2年生の女子学生を対象として、2月5日（月）に卒業・修了予定者の10名前後に出席いただき開催しました。清水校長のリクエストにより『スクールライフを振り返って～勉学・研究・イベント～』、『旭川高専のキャリア形成支援』、『旭川高専に対する要望～後輩たちのために～』の3つの話題についてそれぞれの思いを校長先生と語り合っていました。



司会：水野先生（手前）
副室長：大澤先生（奥）

「女子学生と校長との懇談会 Part I」は本科1年の女子学生を対象としたもので、12月18日（月）に4学科の12名が出席しました。高専ガールの更なる比率向上に向けて清水校長が提案した3つの話題『旭川高専の受験・入学に関して～参考になった情報と保護者の思い～』、『入学後のスクールライフ～女子学生が過ごしやすい環境づくり～』に加え、『キャリア形成片～卒業後の進路への思いと希望、地元企業での勤務希望の有無～』について活発な情報交換が行われました。



本科1年女子学生と校長との懇談会の様子



OGとプレゼンの様子



「旭川高専 OG と女子学生とのトークセッション」は、9月5日（火）に旭川市内・札幌市内及び近郊の企業などの技術者・大学院生のOG 4名を迎え、就職や進学を控えた本科4年女子学生ほぼ全員（19名）が参加し行われました。本科卒業後に就職、大学編入後に就職、教育機関勤務、専攻科を経て大学院進学といった様々な経歴のOGから、本科卒業時の進路対応（企業との出会い・大学選定）、専攻科・大学院の魅力、地元で働く思いをプレゼンしていただきました。その後、女子学生からの質問に答える形で活発な情報交換が行われました。参加した女子学生のアンケート結果として、貴重な情報が得られた、夏休み期間のインターンシップ先を決める前に本トークセッションを開催して欲しかったとの意見・要望が出ました。この企画が高専ガールの進路決定に役立つことを期待します。



清水校長先生との会話が弾む



一般的に中学校では高専の存在が十分に知られていないと言われています。参加女子学生の高専受験のきっかけは、中学校の教師や先輩からの情報（本校の広報パンフレット含む）、保護者・兄弟からの情報、インターネットからの情報（本校のHP含む）など多種多様です。そして、ロボコン・パソコン・プログラム開発・留学などが「高専」と「中学生」を繋ぐキーワードでした。また、今回もホームルーム教室における夏季の暑さ対策と冬季の寒さ対策へのよりきめ細かな配慮の要望が出ました。



旭川高専 OG と女子学生とのトークセッションの様子



旭川高専 OG と女子学生とのトークセッションの集合写真

ANCTOPICS

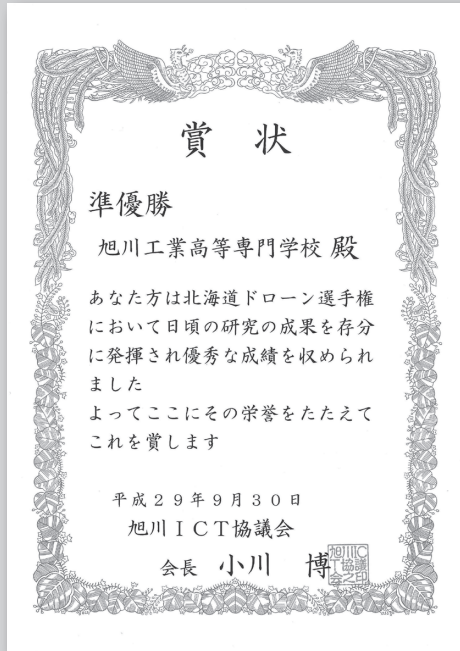
第1回北海道ドローン選手権 準優勝！！

9月30日(土)に勤労者体育センター(旭川市)において、第1回北海道ドローン選手権が開催されました。本校からは、生産システム工学専攻1年 板坂 優人さん、鎌田 悠司さん、システム制御情報工学科 以後 直樹准教授が参加し、準優勝の成績を収めました。

本大会は、北海道においてドローンの研究を行っている高専(2チーム)・大学(6チーム)から計6チームが参加しました。競技は、体育館を牧草地、段ボールに入っているサッカーボールを牛に見立て、ドローンでその上空を飛行し、サッカーボールの数を計測し、計測数の正確性、計測方法の独自性、競技時間を競いました。

本校チームは、優勝した北海道大学大学院チームと評価点では同点でしたが、競技時間の差で惜しくも準優勝となりました。本校の専攻科生(大学3・4年生相当)が、大学院と同等レベルの計測システムを構築できたことは、本校の専攻科生の実力を外部に発信する良い機会になりました。

来年度の大会は、さらにスケールアップし、屋外での開催が予定されています。再び、彼らが活躍してくれることを期待しています。



「札幌モーターショー」に本校学生が出展しました

1月19日(金)～21日(日)、札幌ドームにて開催された札幌モーターショー2018「北海道ハンドメイドエコカーコンテスト」に本校が出展しました。製作者は機械システム工学科5年の井川 俊介さん、上杉 拓也さん、竹森 彪さん、谷口 智義さんの4人です。

日頃から授業や卒業研究で忙しいにもかかわらず、4名の学生たちの参加意欲はとて高く、技術創造部の職員や本校OBの協力も得ながら、土日冬休みも不休で、「AK Go Go」という車を製作しました。



この車には、雪かきファンや4本ジャッキ、展開屋根、スマートグラスによる走行シミュレーションなど、さまざまなギミックの仕組みを搭載しました。展示ブースではこれらの仕組みの実演も行ったため、多くの子供たちが本校の車両に乗車するために列をなしていました。おかげで小中学生による人気投票ではトップ票数を獲得し、「子ども賞」を受賞することができました。

本校からの札幌モーターショーへの出展は、今年度で3回連続となります。約10万人の来場者を迎えたイベントで、今回も札幌の子どもたちに本校の魅力を伝えることができました。



出展車の紹介動画がこちらからご覧になれます。

コンケン大学、カセサート大学(タイ王国)及びラオス国立大学(ラオス人民民主共和国)と学術交流協定を締結しました

12月2日(土)～10日(日)の日程で、本校の清水校長と物質化学工学科の堺井准教授が、タイ王国のコンケン大学と、カセサート大学、ラオス人民民主共和国のラオス国立大学を訪問し、各大学と新たに学術交流協定を締結しました。本協定は相互に対等な立場で、学生・教職員の交流、共同研究の実施、学術会議の開催等に協力することなどを目的として締結したものです。これらの協定を基に、今後、各大学との学生の相互派遣等を行う予定です。興味のある学生の皆さんは、是非積極的に参加してください。



カセサート大学 工学部長表敬訪問



コンケン大学 協定調印式での記念写真



コンケン大学 研究室視察



ラオス国立大学 懇談の様子

本校学生が研究発表会で受賞しました

1月16日～17日に北海道大学フロンティア応用科学研究棟にて開催された「化学系学協会北海道支部2018年冬季研究発表会」において、物質化学工学科5年 柳本 はるのさんと梅村 清さんの2名が各発表部門において「優秀講演賞」を受賞しました。

柳本さんは、口頭部門において「Al合金表面に形成したアノード酸化皮膜の構造と電気化学的特性について」という演題で発表し、梅村さんは、ポスター部門において「食用菌・菌株の純水保存の試み ～シイタケとヒラタケの可能性～」という演題で発表しての受賞となりました。

本発表会は日本化学会、石油学会、腐食防食学会、日本分析化学会、表面技術協会、触媒学会、電気化学会の7つの学会等の北海道支部が共催で毎年この時期に開催しているものです。今年も例年通り、北海道大学、室蘭工業大学といった道内大学の学部4年生ならびに大学院修士課程、博士課程の学生を中心に口頭発表、ポスター発表ともそれぞれ100件程度の発表がおこなわれました。その中で、上記2名は9件の優秀講演賞[口頭部門]ならびに3件の優秀講演賞[ポスター部門]のひとつとして選ばれたものです。おふたりの今後のさらなるご活躍を期待しています。



本校学生が旭川市から表彰を受けました

物質化学工学科4年の目黒 拓海さんと同じく物質化学工学科3年の井上 小都莉さんが、「旭川市青少年健全育成功績者表彰」個人の部(青少年)を受賞しました。

この表彰は、旭川市の子ども会活動、奉仕活動、非行防止活動、まちづくり活動など明るく住みよい社会の創造に多年にわたり貢献し、他の模範とされる個人を称えるものです。

二人は、多年にわたり「旭川市連合子ども会」に所属し、会の中心メンバーとして、活動を通して明るく住みよい社会の創造に貢献してきました。この度の受賞は、この活動が認められたものです。

二人の今後ますますの活躍が期待されます。



行事予定

平成30年度
4～6月

4月	1日(日)～4日(水)	春期休業
	5日(木)	入学式
	6日(金)	始業式・対面式(本科)、1年オリエンテーション(本科・専攻科)、TOEIC説明会(本科4年)、授業開始(専攻科)
	9日(月)	授業開始(本科)
	10日(火)	寮生総会
	11日(水)	健康診断(本科・専攻科)
	12日(木)	第1回TOEIC IPテスト(本科・専攻科)
	12日(木)・13日(金)	新入生合宿研修(本科1年)
	19日(木)	交通安全講習会(7時限目)(本科1・3・4年)
	26日(木)	学生総会(7時限目)(本科)
5月	2日(水)	授業参観日(本科)
	3日(木)	閉寮日
	7日(月)	開寮日
	9日(水)	英検IBAテスト(本科1～3年)、TOEIC IPテスト(本科4・5年)
	17日(木)・18日(金)	校内体育大会(本科)
	19日(土)	専攻科推薦選抜試験
	24日(木)	いじめに関する講演会(7時限目)(本科1年)、インターネットトラブル防止講演会(7時限目)(本科2・3年)
	31日(木)	薬物乱用防止講習会(7時限目)(本科5年)
6月	5日(火)～11日(月)	前期中間試験期間(本科)
	9日(土)	専攻科前期学力選抜試験
	16日(土)	明誠寮祭
	21日(木)	進路に関する講演会(7～8時限目)(本科4年・専攻科1年)
	21日(木)・22日(金)	宿泊研修(本科2年)
	28日(木)	思春期講演会(7時限目)(本科2年)

退職する教職員の紹介

平成30年3月31日付 職員 学生課長 森 實 利 一
学生課専門員 永 井 淳 一

大変お世話になりました。

FANCT vol.130

「FANCT」…旭川高専を表す「ANCT」に「F」をつけて「Fun」（楽しい、愉快的）の音を付けました。旭川高専の楽しい情報を伝えること、また、読むのが楽しみな学校だよりになるよう名付けました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

〒071-8142 北海道旭川市春光台2条2丁目1番6号

TEL 0166-55-8000 (代表)

FAX 0166-55-8082

<http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー・転写等の二次利用は固くお断りいたしております。

編集後記

卒業・修了される学生のみなさん、おめでとうございます。卒業は“graduation”であると同時に“commencement”でもあり、長い人生の中で「新たな始まり」が刻まれる一区切りです。とはいっても、まったくのゼロから新しく始めるのではありません。本校で過ごした学生時代が土台になっているからこそ、人生の新しいチャプターを綴り始めることができるのです。

今年度も、さまざまな学校行事、コンテスト出場、学生支援の取り組み、研究会での受賞などがありました。単位のかかった勉強からは得られない貴重な経験も積み、そこから大きな成果も挙げながら、毎年本校の学生は成長し巣立っていきます。その様子を今号の学校だより「FANCT」から感じ取っていただければと思います。

櫻井 靖子（学校広報 WG）